

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471000253		
法人名	社会福祉法人長茂会		
事業所名	グループホームわらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦古里の上4689-1		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果市町提出日	平成26年10月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2471000253-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

尾鷲湾を眼下に望む周りの自然を生かし、四季折々の景色を楽しむことができます。
暮らしの中では、寄り添ったケアによる一人ひとりの趣味嗜好の理解に努め、家事や菜園など、役割を積極的に持って暮らしていけるように支援いたします。また、地元の祭りや催し物などに団体での外出だけではなく、思い出の場所やご自宅への故郷訪問などに個別での外出や、家族または知人の方が気軽に面会出来る雰囲気を作りなじみの人と会って頂くことで、馴染みの人や場所とのこれまでの繋がりが切ることなく、常に笑顔の絶えない明るい環境の中で皆様に暮らして行けるように、お手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員がやるべきことをしっかりやって利用者の為に介護への誇りを持って接しているのが、職員の利用者への温かい思いやりと責任を感じる。利用者のADLをなるべく維持するために辛抱強く介護努力し、利用者第一に介護が行われている。精神や体が入居時より改善され、家族から感謝されている。それは施設の基本理念を開業以来実践されていることにあり、挨拶がしっかりした礼儀正しい職員の喜びに繋がっており、明るい笑顔と会話で利用者も安心して暮らされている。個室のベッド脇にブザーがあり、利用者が職員を緊急で呼びたい時に押すと各部屋の外のランプが点灯し事務室のブザーも鳴り職員がすぐに来てくれる。どの部屋も海に面しているため絶景で空気が新鮮で、リゾート施設に宿泊しているようである。地域との交流や馴染みの人と場所との繋がりが切れないよう各種行事が多いのと外出の機会作りに努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼での復唱により理念の共有に努め、「自分の親(かけがえのない人)として」優しさや思いやり、尊敬の心を常にもってかわっています。	①「自分の親として」の心を常に念頭に置く。②個人の自主性・自立性を尊重し、サービスの向上を図る。が基本理念である。90歳代から100歳になるまで長生きしている利用者が居るのは、理念が朝礼復唱のお題目に終わらず設立時から守られ職員に浸透して実践していることの証である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、祭りなどへの参加、法人主催の地域合流運動会や合同夏祭りなどを通じ交流を図っている。	尾鷲八幡祭り、夏祭り、老人会福祉大会、中学校の文化祭見学、文化会館市場いただき市見学、地域交流運動会、尾鷲節コンクール、法人内運動会、特養慰問フラダンス等イベントへ参加して地域とのつながりを多くしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体での介護研修や地域の中学校の福祉体験学習、介護者対象の介護教室などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を通じ、行事やサービスの報告・予定以外にも、介護福祉は勿論、防災や地域の情報などについての意見交流を行い、介護福祉に対しての相互協力を図っている。	2ヶ月に1回奇数月に開催し、施設の計画方針を伝えたり、他施設の情報を得たりしている。会議後におやつのたこ焼き作りなど施設の様子を見学してもらったり、地域住民の高齢者に参加してもらい介護者教室も開催したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターや民生委員の方々などに連絡をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の更新時に市の担当者と話し、スプリンクラーの設置時に尽力してもらった。また、地域包括センターから待機状況を聞かれたり、包括センターの社会福祉士と一緒に社会福祉士会の勉強会に参加しながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎年4月に発足し、身体拘束等の排除、マニュアルを作成し共有している。日中は施錠せず、のびのびと生活出来る環境を作っている。	身体拘束委員会を毎年4月に開催して、職員全員の研修をしている。夜間は施錠しているが、日中は玄関や窓を施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待、言葉による精神的虐待についても、職員同士が注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用はありませんが、各フロアに権利擁護のパンフレットを設置し、職員への研修や勉強会などへの参加を通じて、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学などを行い、契約の際には、家族の方々に十分な説明を行うことで、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは、普段の会話や様子に留意し、家族等の意見や要望は、面会や電話、定期的な連絡などで採り上げています。また、法人内に苦情解決委員会の設置や意見箱を玄関に設置している。	家族来訪時に食事やおやつを出して、話しやすい雰囲気を作り意見を聞いている。また、月1回の家族へ請求書送付時にも手紙を入れている。苦情解決委員会は2ヶ月に1回開催して記録も付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りや、気軽に書ける申し送りノートを活用し、意見や提案を交わし運営に反映させている。	職員会議は月1回、グループ法人代表者会議を月2回開催している。申し送りノートで職員から職員へ毎日話すが、施設長も聴いて把握している。職員の処遇でも有休を取り易くしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇願など柔軟に対応し、職員間でのアイデアや提案を代表者会議で検討することで、職員がやりがいや、向上心を持って働ける職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修は勿論、研修を受ける機会の確保を行い出来る範囲で参加し、また職員間で共有しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や、同じ地域の同業者への、施設見学受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で、出来る限り多くの要望や情報を聴き取りコミュニケーションを大切にして、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際、本人の希望、家族の思いも取り入れ、介護方針を決め共有し、定期的及び随時の連絡を通じて、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人には複数の介護サービスがあり、事前調査や担当者会議の中で、本人の心身の状況や希望を聴き取り、本当に必要なサービスを本人本位で決定できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の「自分の親として」の心を、常に念頭に置き共に暮らすものとして、「喜び」「楽しみ」「不安」などを共感でき、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事への参加や面会し易い雰囲気作りに努めている。また、本人とご家族を交えた意見交換に加え、定期的な連絡を行い、ご利用者の出来る限り新しい状況を、ご家族と共有出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	尾鷲市内だけではなく、紀北町にもドライブに出掛け、出来るだけ多くの馴染みの人や場所との関係が途切れない様に努めている。	来訪された知人と外出したり、家族と外食、家族の了承を得て自宅や美容院、公園、熊野古道、祭り、イベント、買い物、お墓参り等に行っており、馴染みの人や場所との関係が途切れない努力をしている。	今までも馴染みの人や場所との関係が途切れない努力をしているが、施設から利用者の知人を迎えに行ったり、家族だけでなく近隣の方に来訪してもらい施設への来訪者を多くする努力を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや菜園での野菜作りの作業や、収穫した野菜を、皆で調理して食卓に並べるなど、共同生活を楽しくして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡、又病院や施設からの相談においては、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ヒアリングを用いた、一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努め、本人との日常会話や面会の方との意見交換により集めた情報から、本人視点に立って検討を行っている。	家族や以前のケアマネジャーからヒアリングしたものをアセスメントに記録している。利用者の意向を把握したら外出したがる利用者の意向を把握したので、本人視点に立って暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査によるアセスメント以外に、面会に来られた知人、友人、親族の方々からの情報を多く得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握、毎日のバイタルチェックによる健康管理、記録や申し送りノートを活用により有する力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や変化を把握し、家族との定期的・適時の連絡で得た意見を反映し、全職員が対応を話し合い、介護計画を作成している。	担当者会議、家族の意見を聞きながら3か月に1回見直し、ケアマネジャーがモニタリングに記録している。より良くする為センター方式を一部取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録を残す事により、それをもとに気付いた事や改善方法などを話し合い、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	故郷訪問や美容院、病院への送迎及び付き添い、自然に囲まれた環境を十分に活用し、体で四季を感じとれるよう、散歩やドライブ、食事会などを行い、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員立ち会いの防災訓練、老人会や各ボランティアによる慰問、運営推進会議による地域の方々との意見交流を行い、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の希望に応じて職員付き添いでかかりつけ医を受診している。また、希望に応じて法人グループの診療所医師を受診しているが、木曜日は往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人診療所による、週に一回往診と、同法人内の看護師からアドバイスを貰う事で、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	服薬説明書をファイリングし、入院時の情報交換に利用するなど、出来る限り詳細な情報提供に努めるとともに、利用者が安心して治療出来るよう、職員がお見舞いに行き、早期退院していただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人や家族の意向を聞き、職員全員が方針を共有し、定期連絡に加え、適宜連絡を家族に行っている。	看護師がおらず現状難しいので、ターミナルは基本的に考えていない。しかし、法人グループの特養には看護師がいるので希望があれば空きがあるまで待機してもらい特養に移ってもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護研修の参加や、事故緊急時の対応マニュアルを作成し、すべての職員が共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に加え、法人全体で行う法人合同防災訓練と、法人全体に加えて地域の方にも参加していただく地域合同防災訓練を行っている。	火災と地震を想定した防災訓練をしている。場所柄、道路が封鎖され孤立することも考えられるので一週間ぐらいの水や食料を備蓄している。白米、白粥、チキンライス、わかめご飯とご飯の種類だけでも多種であり、他にカレー、おでん、野菜やくだものの缶詰と多種の食料が備蓄されてい	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保の為、失敗や異常行動の際には、さりげないケアを心がけている。	本人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、失禁された方には耳元で話したりして配慮している。失敗や異常を見つけても大声を出さないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決まったレクリエーションやクラブを行わず、複数の物から選んで頂くことで、自己決定を尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションやクラブの種類、食事や起床の時間を複数用意することで、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧、地域の理容店が毎月来所しており、利用して頂く事が出来る。また希望があれば、馴染みの美容院まで送迎付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を複数献立にし、選択メニューを導入している。菜園の収穫時期には、漬物など昔ながらの品を作り召し上がって頂き、本人の意思を尊重しつつ、出来る範囲で準備や片づけをして頂いている。	調理前の簡単なモヤンのひけ取りやきゅうりの種取り、食後の軽い洗いや食器拭きを職員と一緒にしている。昼食は事前に聞いて食べたい方の料理を提供したり、誕生日には手作りケーキを食べたりしている。菜園では食卓に上がるトマト、きゅうり、とうもろこし、ピーマン、西瓜、キャベツ等色々な物を利用者と作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに関しては栄養士が作成し、それを元に職員が本人にあった形状にしている。また自分で、水分摂取出来ない方などには定期的に水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前のうがいや食後の歯磨きを推進しており、見守り介助を行っている。自分で困難な方は、職員が口腔ケアを行い、口腔状態を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけやトイレ誘導を行い、便器に座って気持ち良く排泄できるように、自立支援を行っている。	布パンツの利用者は3~4人で、他はリハビリパンツを使用している。夜間でもオムツの利用者は2人である。表情からトイレ誘導して自立支援をし、失禁を改善された利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による管理を行っており、水分量の調整や運動不足解消に努めているが、場合によっては医療機関へ相談し、服薬などによる対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が出来るよう声かけを行っている。また季節に応じた菖蒲湯、ゆず湯など入浴方法を取り入れている。	毎日入浴しているが、入浴が嫌いで拒否される利用者にも週3回入って貰いたいので、体調や表情を観察して職員を変更したり、怒ったりする利用者にはお茶を飲んでもらって辛抱強くじっくり話し掛け入って貰う努力をしている。清拭に変更することもある。時間帯は14時から入って貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者により安眠、休息の時間にはばらつきがあり、眠れないご利用者に対しては、なるべく眠剤に頼らず、白湯など飲みながらお話をして安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者全員の服薬説明書をファイリングし、職員がいつでも情報を共有出来る様にしている。状態に変化があれば、直ぐに医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する力の把握に努め、配膳や掃除・洗濯など、それぞれ得意な事を、本人の意思で行って頂き、カラオケやレクリエーションや園芸など、その人に合った物を楽しんで頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然に囲まれた環境を活かして、普段から散歩はよく行っている。また季節の花の観賞や食事会にもドライブをかねて出掛けたり、個別にスーパーでの買い物へ出かけている。	散歩は2~3人につき職員1人が付き添い、1回施設に戻ったら他の職員と交代して散歩する。天気が良い日には日光浴を兼ねて施設の外で机を並べてサツマイモを食べたり、菜園の苺植えなどを利用者5~6人でしている。また、預かっているお金で買い物や外食のドライブもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望が有れば、家族と相談したうえ金額を決め、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞きながら、電話や手紙は自由に使用出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには出来る限り季節の草花などを置き、四季を感じて頂ける様努め、共有空間作りを工夫している。また、会話のトーンやテレビの音量、カーテンの開閉などにも配慮している。	食堂兼居間は、広すぎず狭すぎないので、利用者が他の方とも近くで話し易く、光彩も十分に入り明るい。また、壁には行事や菜園での利用者の写真が貼ってあり、花も飾られて明るい雰囲気にも包まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子などを各所に設置し、ホールから離れた居室以外の場所でも、自由にくつろいで頂いていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、写真などを飾り、本人や家族の希望にそった配置を心がけている。	どの部屋も海に面しているため絶景で、空気が新鮮で海辺の旅館に泊まっているようである。各部屋には押入れがあり、十分な物が収納可能である。また、介護用のベッドは施設の貸し出しであるが、使い慣れた筆筒やベッド、テレビは持ち込みしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレや食堂までの距離に配慮した部屋割り、家具の配置などをご利用者や家族と相談して決め、自立した生活が送れるよう工夫し、安全に過ごせるよう心がけている。		